

あなたは、「愛・地球博」を知っていますか？

～アンケート調査結果にみる「愛・地球博」の認知度～

社団法人中部開発センター

中部開発センターでは、いよいよ開幕まで1年を切った「2005年日本国際博覧会（愛・地球博）」（2005年3月25日～9月25日）の現在の認知度を探るために、全国の人を対象にインターネットを利用したアンケート調査を実施した。

（調査期間：2004年4月26日～5月23日）。

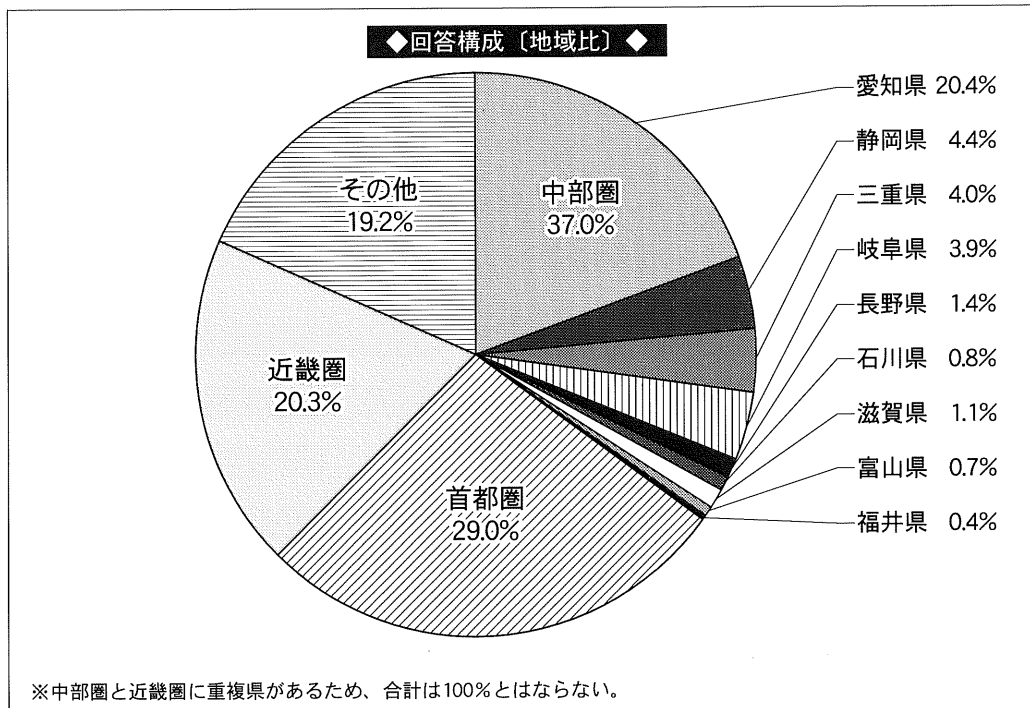
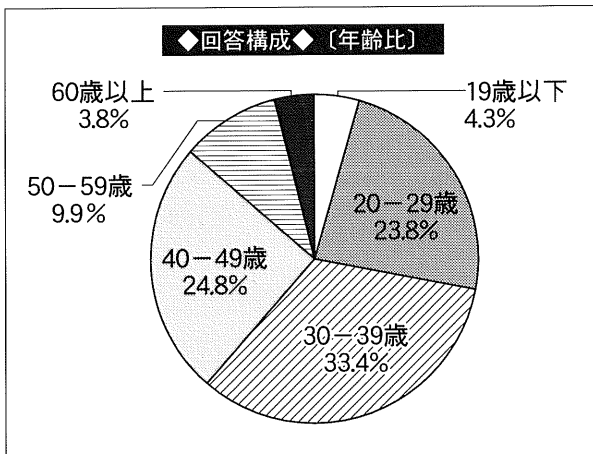
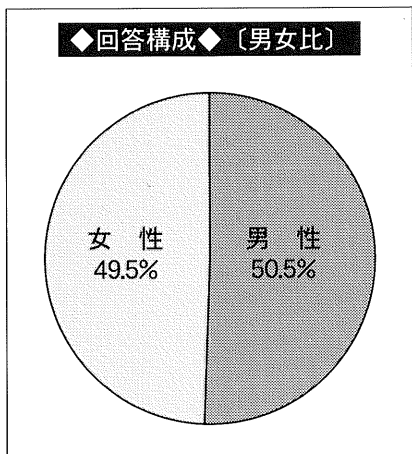
★本調査における地域区分は以下のとおり。

地域区分	範 囲
首都圏	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
近畿圏	福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中部圏	富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県
その他	首都圏・近畿圏・中部圏以外の地域

■回答者の属性について■

有効回答者数は、8,482人。男女比率は、男性50.5%、女性49.5%となり、ほぼ半々の回答が得られた。年齢別にみると、30代が33.4%と最も多く、次いで40代（24.8%）、20代（23.8%）の順。地域別では、開催地の

ある愛知県を含む中部圏¹が37.0%、首都圏²が29.0%、近畿圏³が20.3%、その他が19.2%であった。都道府県別では愛知県が最も多く20.4%であった。



- 1 中部圏：愛知、静岡、三重、岐阜、長野、石川、滋賀、富山、福井の9県。
- 2 首都圏：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨の8都県。
- 3 近畿圏：福井、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の8府県。

■アンケート調査の結果■

Q1 愛・地球博をご存知ですか。

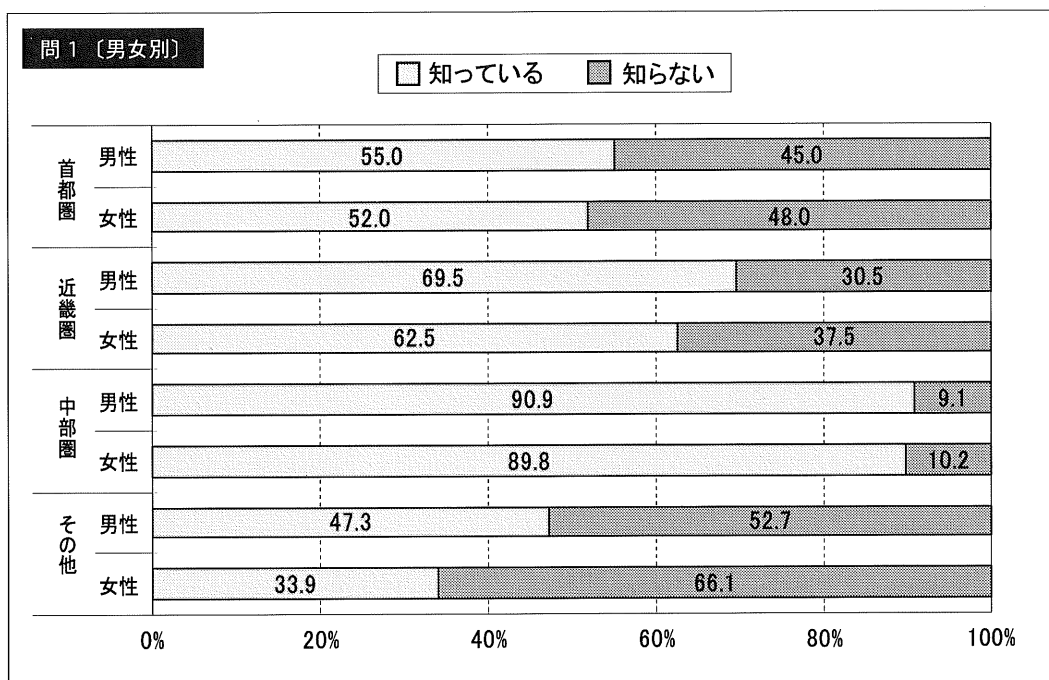
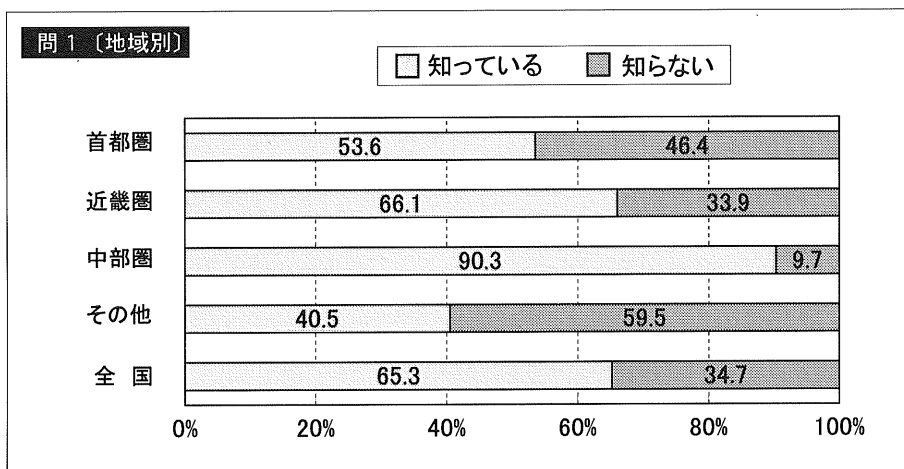
★「知っている人」は、中部圏9割、首都圏5割。

3大都市圏以外の女性の認知度はかなり低い。

愛・地球博の認知度は、やはり開催地をかかえる中部圏は高く、9割を超える90.3%が「知っている」と答えた。次いで知っている

人が多いのが近畿圏で、66.1%。首都圏では「知っている」人は、わずかに「知らない」を上回る53.6%という結果が出た。

男女別に見ると、どの地域も男性の認知度の方が女性に比べ高いが、3大都市圏ではその差はそれほどない。しかし、3大都市圏以外の地域では、男性が5割に近い47.3%が知っているのに対し、女性は33.9%と低く、男女の認知度に関差がある。



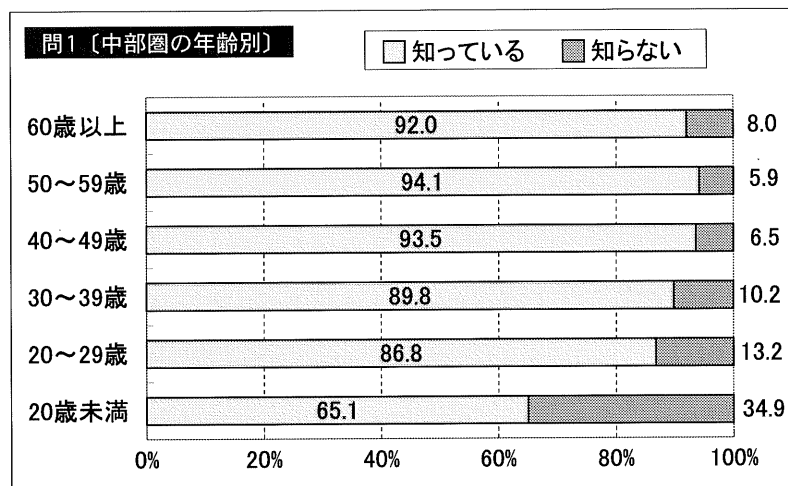
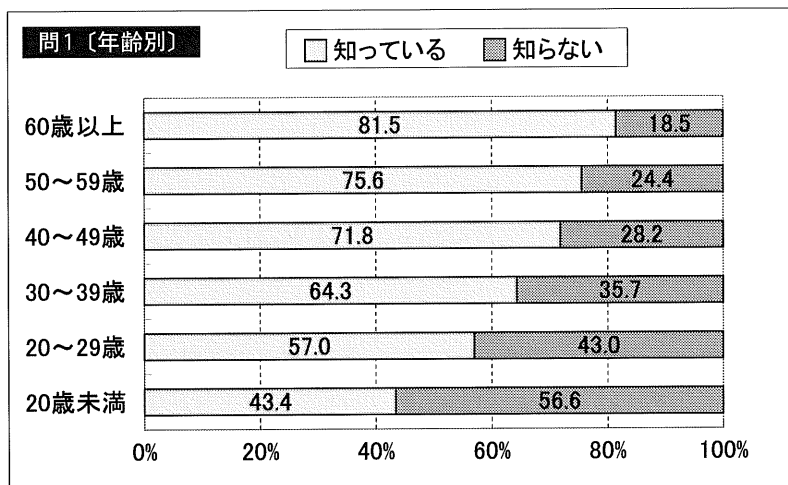
★年齢が若いほど低い認知度。

中部圏でも、20歳未満では認知度はまだまだ。

年齢別で認知度を見てみると、階段状の結果が出た。全体としては60歳以上が最も多く、若い世代になればなるほど知っている人の割合が低い。

合が低い。

地元である中部圏に限ってみると、「知っている」が40代以上では9割、20代以上でも8割を超えているのに対し、20歳未満では「知っている」が65.1%にとどまっているという顕著な結果が現れた。



Q2 (Q1で「知っている」の回答者への質問)

愛・地球博についてご存知のことをお選びください。

(複数回答可)

★愛・地球博のテーマ「自然の叡智」に関しては、

中部圏で愛・地球博を知っている人でも、認知度は5割程度。

Q1で「知っている」と答えた人に「愛・地球博」の“何”について知っているかをたずねたところ、どの地域も「開催場所」と「愛・地球博という愛称」の2つが高かった。ただ、その「開催場所」について、中部圏では92.7%、近畿圏では76.0%が知っているのに対し、首都圏では66.1%、その他の地域では67.3%と認知度が低かった。

また、「開催時期」については、首都圏とその他の地域で知っている人は5割を切る結果が出た。

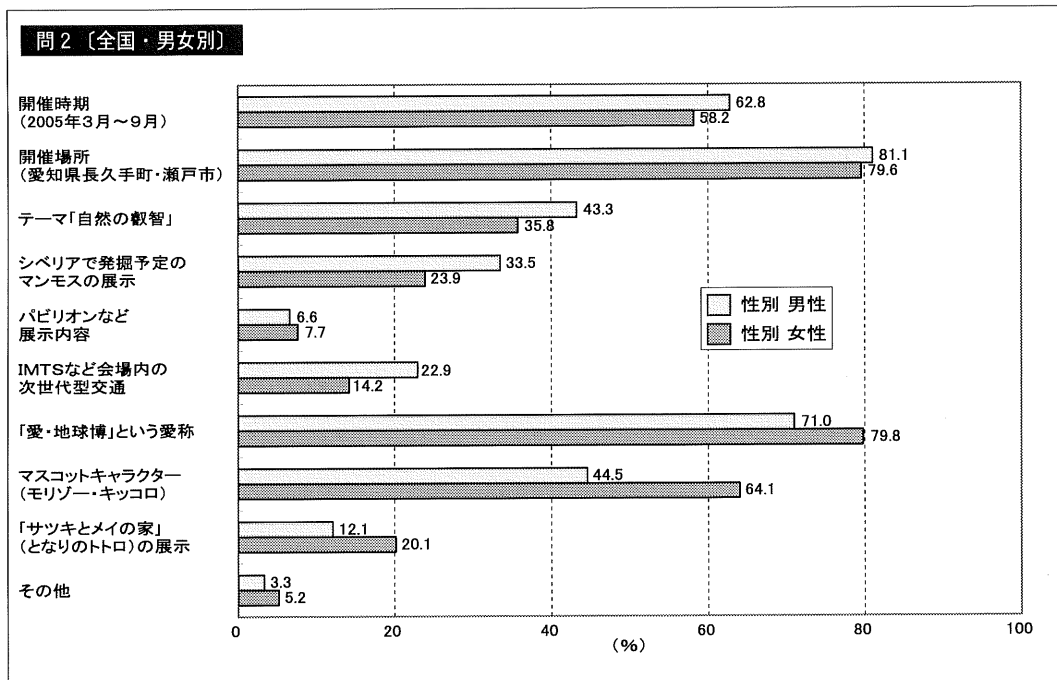
これ以外の項目の認知度は全体的に低い。今回の愛・地球博覧会のテーマである「自然の叡智」について知っている人は、中部圏でも5割程度で、近畿圏34.9%、首都圏28.2%、その他の地域27.0%であった。また、「パビリオンなど展示内容」についてはどの地域でも認知度が低かった。

★キッコロとモリゾーは女性に人気?

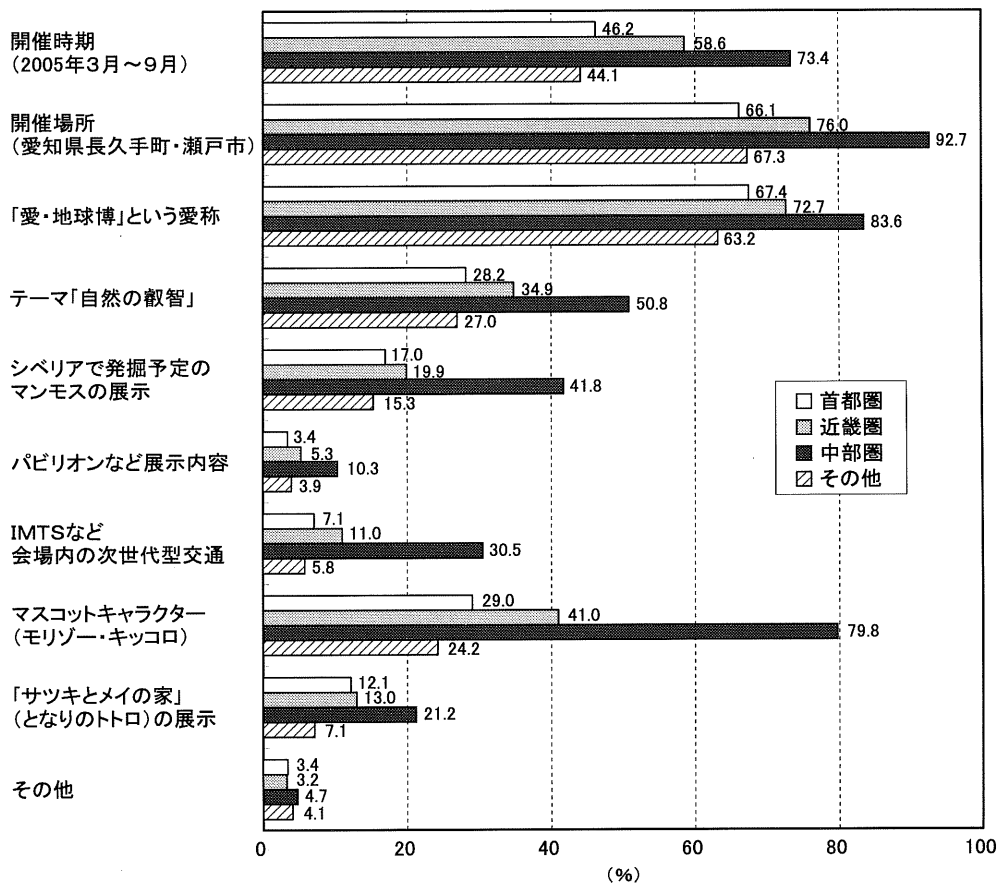
男女で大きな差が出たのは、モリゾーとキッコロの Mascotキャラクター



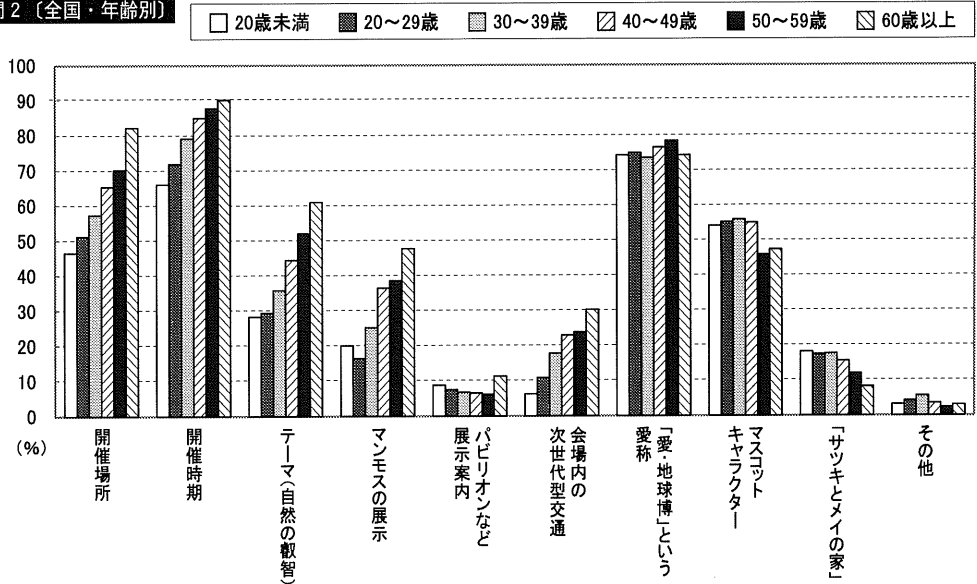
についての認知度。他の項目では、ほぼ男女差がないのに対し、Mascotキャラクターはどの地域でも女性の認知度が男性に比べ高い。特に首都圏では、男性18.6%に対し、女性は41.6%の人が知っていた。



問2〔地域別〕



問2〔全国・年齢別〕



**Q 3 愛・地球博の開幕までに、
もっと知りたい情報をお選び
ください。（複数回答可）**

★知りたい情報のトップは「パビリオン
や展示物の詳しい内容」。

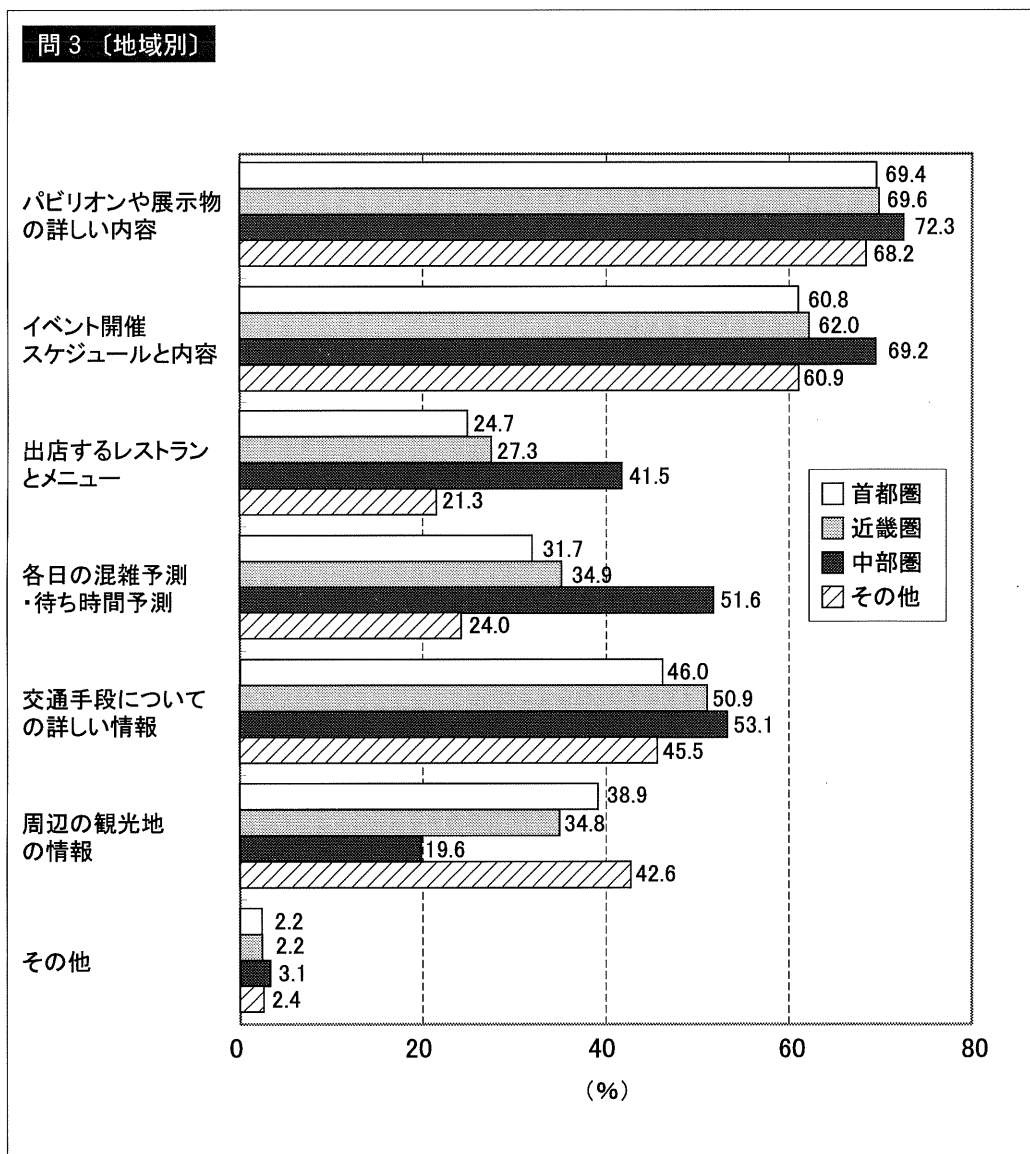
3大都市圏以外の方は、周辺の観光地
情報への要望も高い。

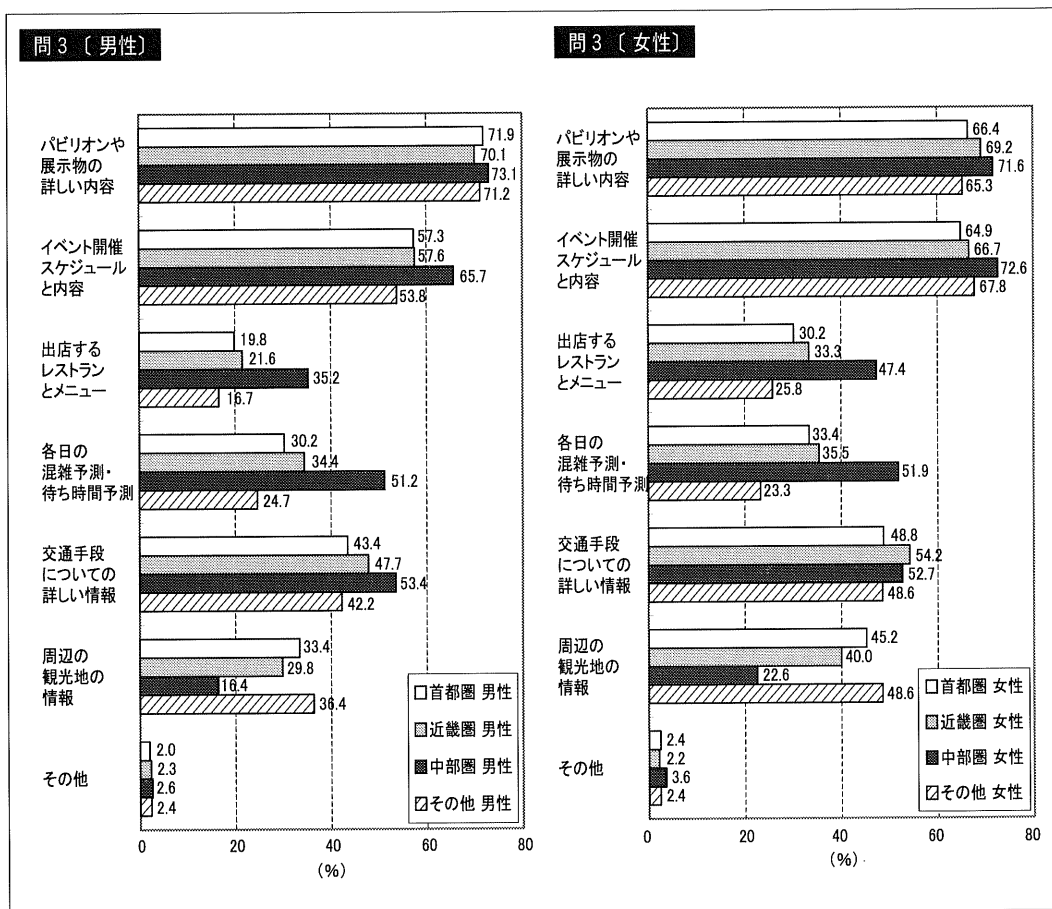
開幕までに愛・地球博について知りたいこ
とのトップは、どの地域とも「パビリオンや

展示物の詳しい内容」、次いで「イベント開
催スケジュールと内容」であった。

地域別で違いが出たのは、「各日の混雑予
測・待ち時間予測」である。首都圏、近畿圏
が3割程度であるのに対し、中部圏では約5
割の人が知りたい情報として選んでいる。

また、「周辺の観光地情報」については、
どの地域も女性の方が知りたいという比率が
高かった。特にその他の地域の女性は約5割
の人が知りたいと答えている。





★その他の意見では、「愛・地球博の目的とテーマがよくわからない」の声が多数。

その他に回答を寄せた人の意見のなかで多かったのは、テーマに関するものであった。

「愛・地球博の開催目的とテーマについて知りたい」「テーマの自然の叡智とはどういうことなのかかわからない」「自然との共生をテーマにすることだが、具体的にどういうものなのか知りたい」と、テーマが何か全く知らない人はもちろん、「自然の叡智」とい

うことを知っている人でも、そのテーマのもとどのような万博になるのかわからないので知りたいという意見が主に20代～40代から多く寄せられた。

開催地から遠い地域では、宿泊情報を求める声も多い。さらには、愛・地球博をからめた観光ツアーを設定してほしいという要望つきの観光情報を求める声もいくつかあった。

また、「万博を見て回るのに、いくつか会場内のお勧めコースを設定して紹介してほしい」という意見も少なからずあった。

Q4 愛・地球博に行く予定はありますか。

★「できれば行きたいが、現時点では未定」がトップ。

やはり、「内容が魅力的ならば行く」？

今回のアンケート回答者のうち、すでに入場券を持っている人は、中部圏では27.8%。ついで近畿圏が5.5%。首都圏は1.1%、その他の地域では0.7%であった。

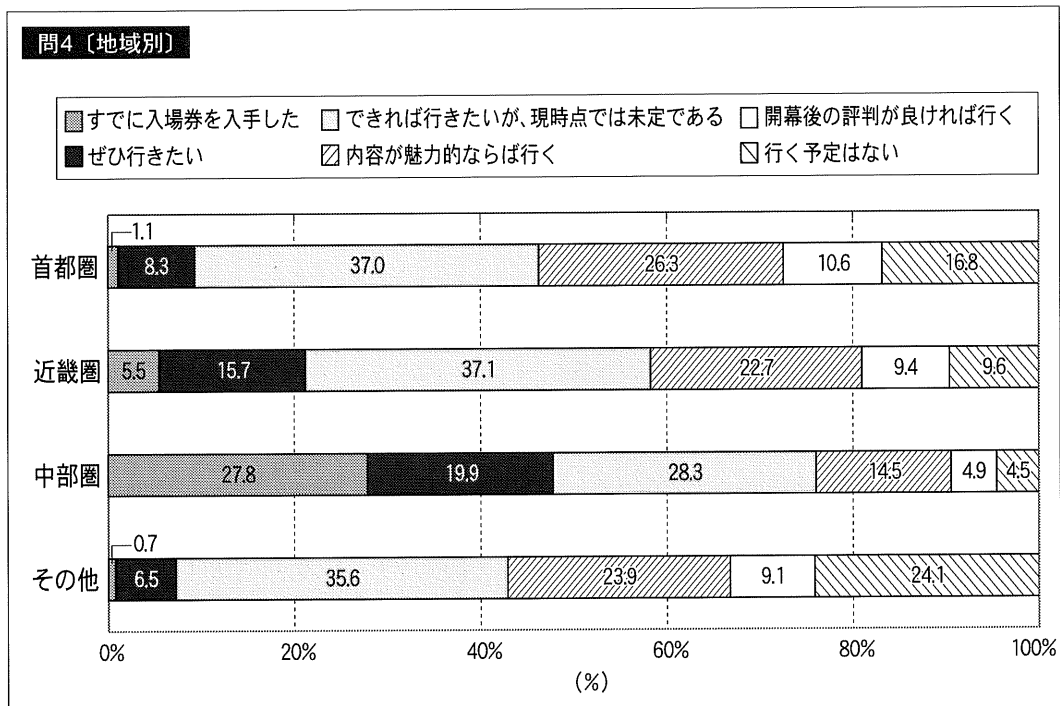
どの地域においても「できれば行きたいが、現時点では未定である」と答えた人が最も多く、中部圏以外では「内容が魅力的ならば行く」と回答した比率も高かった。

行くことを前向きに考えている人（「すでに入場券を入手した」「ぜひ行きたい」「でき

れば行きたいが現時点では未定である」の合計）は、中部圏76.0%、近畿圏58.3%、首都圏46.4%、その他の地域42.8%となった。

一方、現時点では行く方向に向いていない人（「内容が魅力的ならば行く」「開幕後の評判が良ければ行く」「行く予定はない」の合計）は、首都圏で53.7%、近畿圏41.7%、中部圏23.9%、その他の地域では57.1%あった。しかしそのうち、今後の内容や評判次第（「内容が魅力的ならば行く」「開幕後の評判が良ければ行く」の合計）と考えている人が、首都圏で36.9%、近畿圏32.1%、中部圏19.4%、その他の地域で33.0%いるという結果も現れた。

この問いでは男女による違いはほとんどなかった。

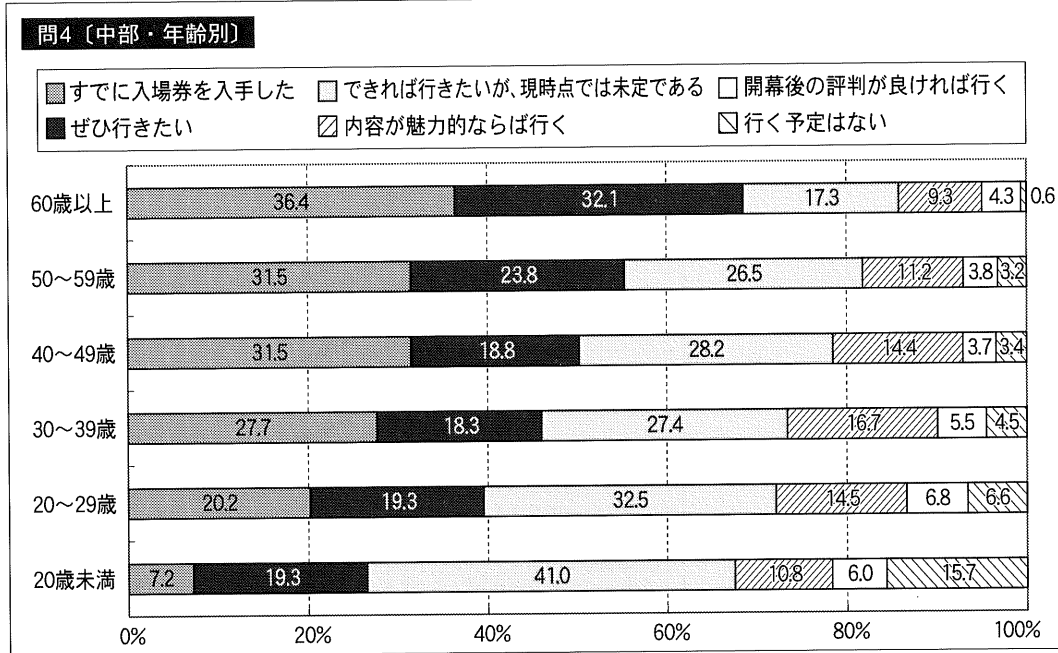
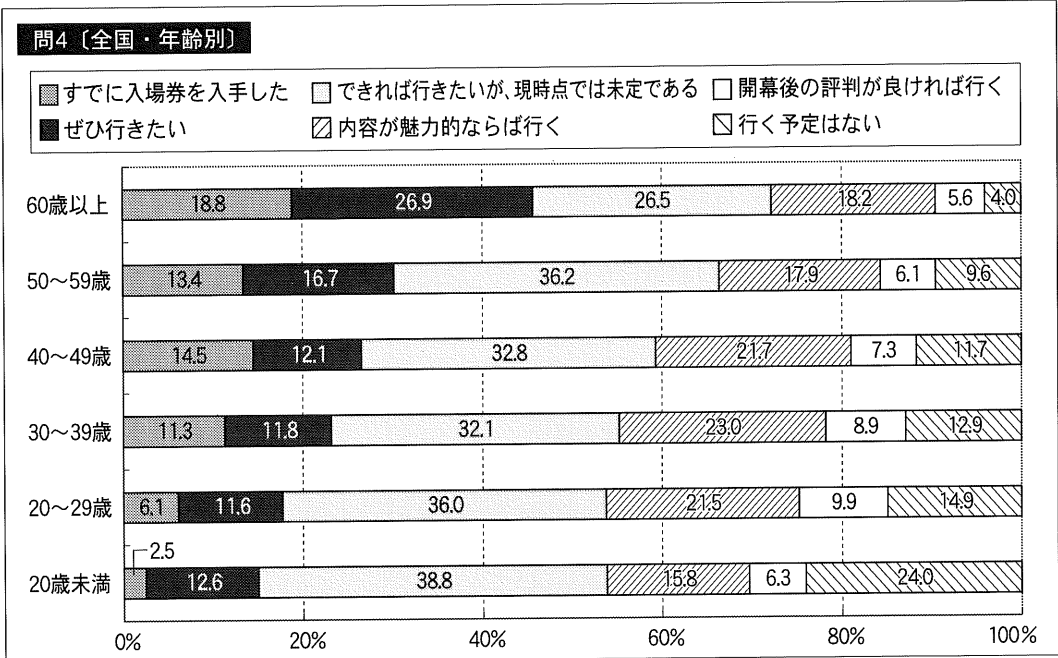


★20歳未満も「できれば行きたい」。

年代別にみると、すでに入場券を入手している年代は60歳以上が最も多く、次が全国で見ると40代、中部圏に限定すると50代という結果が出た。60代で入手がまだな人も「ぜひ行きたい」と考えている割合は高く、「すでに入場券を入手」「ぜひ行きたい」「できれば

行きたいが現時点では未定」を合わせた”行くことに前向き人”は、72.2%いる。

一方、20歳未満は、「すでに入場券を入手した」「ぜひ行きたい」という人は少ないものの、「できれば行きたいが、現時点では未定」がどの年代よりも高い38.8%となった。



Q5 (Q4で「内容が～」 「開幕後の～」 「行く予定はない」の回答者への質問)では、どういふ条件であれば行っても良いと思いますか。

★現時点で「行く方向に向いていない人」の愛・地球博への要望のトップは、「楽しそうなパビリオン展示」。

Q4で「内容が魅力的ならば行く」「開幕後の評判が良ければ行く」「行く予定はない」と答えた人を対象に、「どういふ条件であれば行きたいか」をたずねたところ、回答が多かったのは、「楽しそうなパビリオン展示があれば行きたい」「入場料が安ければ行きた

い」「交通の便が良ければ行きたい」の3つ。特に「楽しそうなパビリオン展示」に関しては、どの地域も総じて高い。

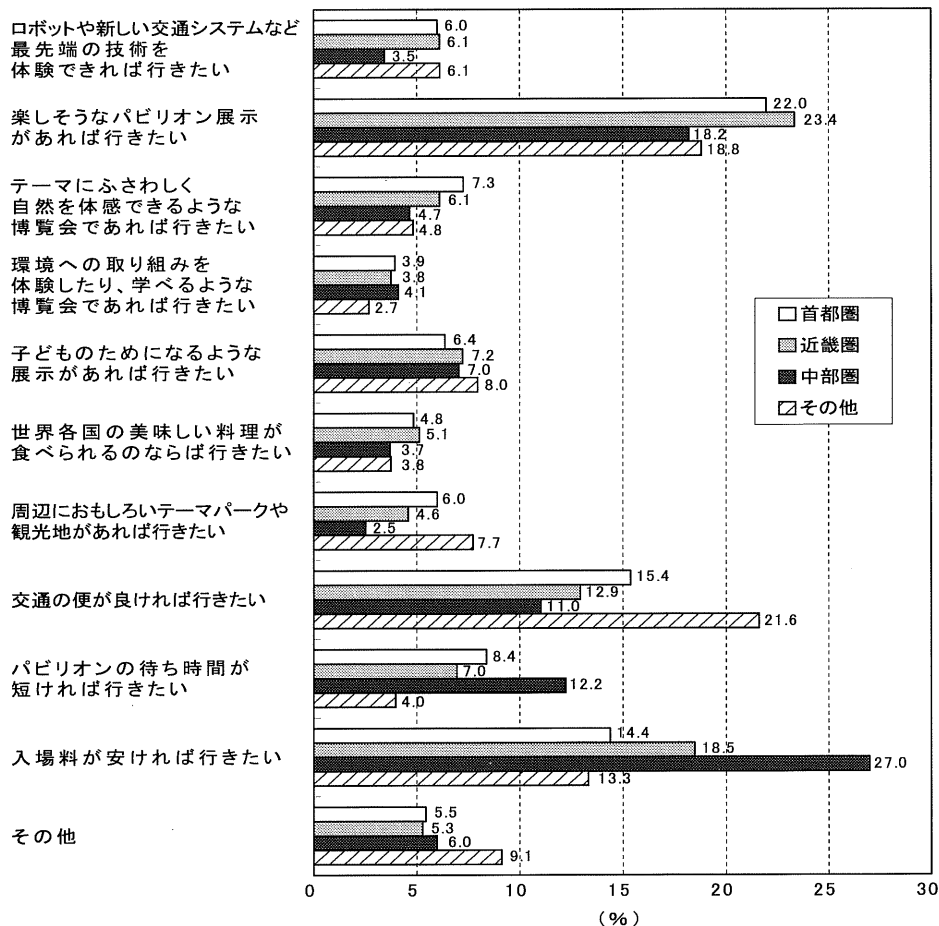
★交通の便の良さを求める「その他の地域」

楽しさも経済性も求める「中部圏」

地域別の特徴をあげると、開催地から遠いその他の地域では、「交通の便が良ければ行きたい」への要望が最も高く、他の地域と差が出た。また中部圏では、「入場料が安ければ行きたい」が中部圏以外の地域に比べ顕著に高く、楽しさも求めるが、経済性も強く求める結果が現れた。

男女では顕著な違いはでなかった。

問5〔地域別〕



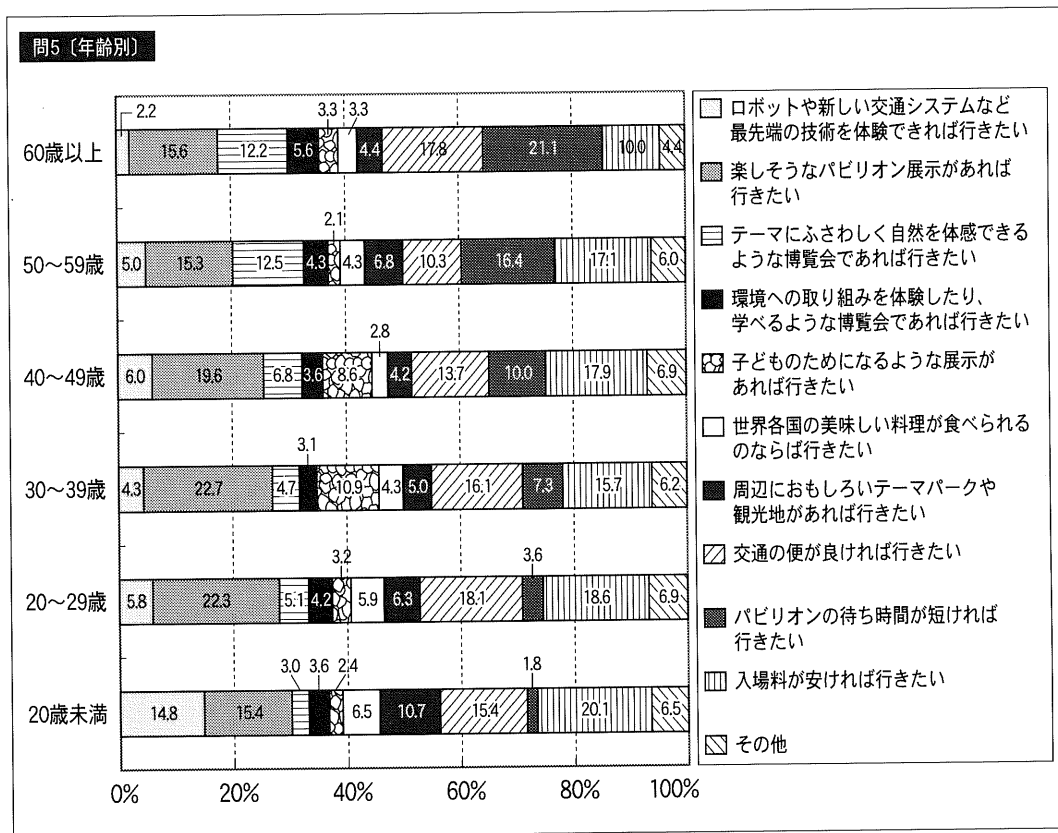
★「子どものためになる展示」を望む30代、40代。

また、年代が上がるごとに「待ち時間の短さ」を求める傾向に。

年齢別では、幼児や学童を持つ世代である30代と40代で「子どものためになるような展示があれば行きたい」と回答した比率が高い。

その他を選択した人の意見のなかでも、「子連れでも安心して楽しめるのなら行きたい」という意見が多数あった。

また50代、60代は、「パビリオンの待ち時間が短ければ行きたい」が、「楽しそうなパビリオンがあれば行きたい」を上回った。



Q 6 愛・地球博の何を見たい（体験したい）ですか。

（複数回答可）

★パビリオン、イベント、世界の料理への関心が5割。

愛・地球博で何を見たい（体験したい）ですかという質問に対しては、中部圏では愛・地球博に関する情報を入手しやすい環境もあってか、他地域に比べると今回提示したすべての展示内容等について高い関心を示す結果が表れた。その点を除けば、地域によって関心を持つ項目の違いはほとんどなく、どの地域も、「企業のパビリオン」「イベント・催し物」「世界各国の料理・味を楽しめるレス

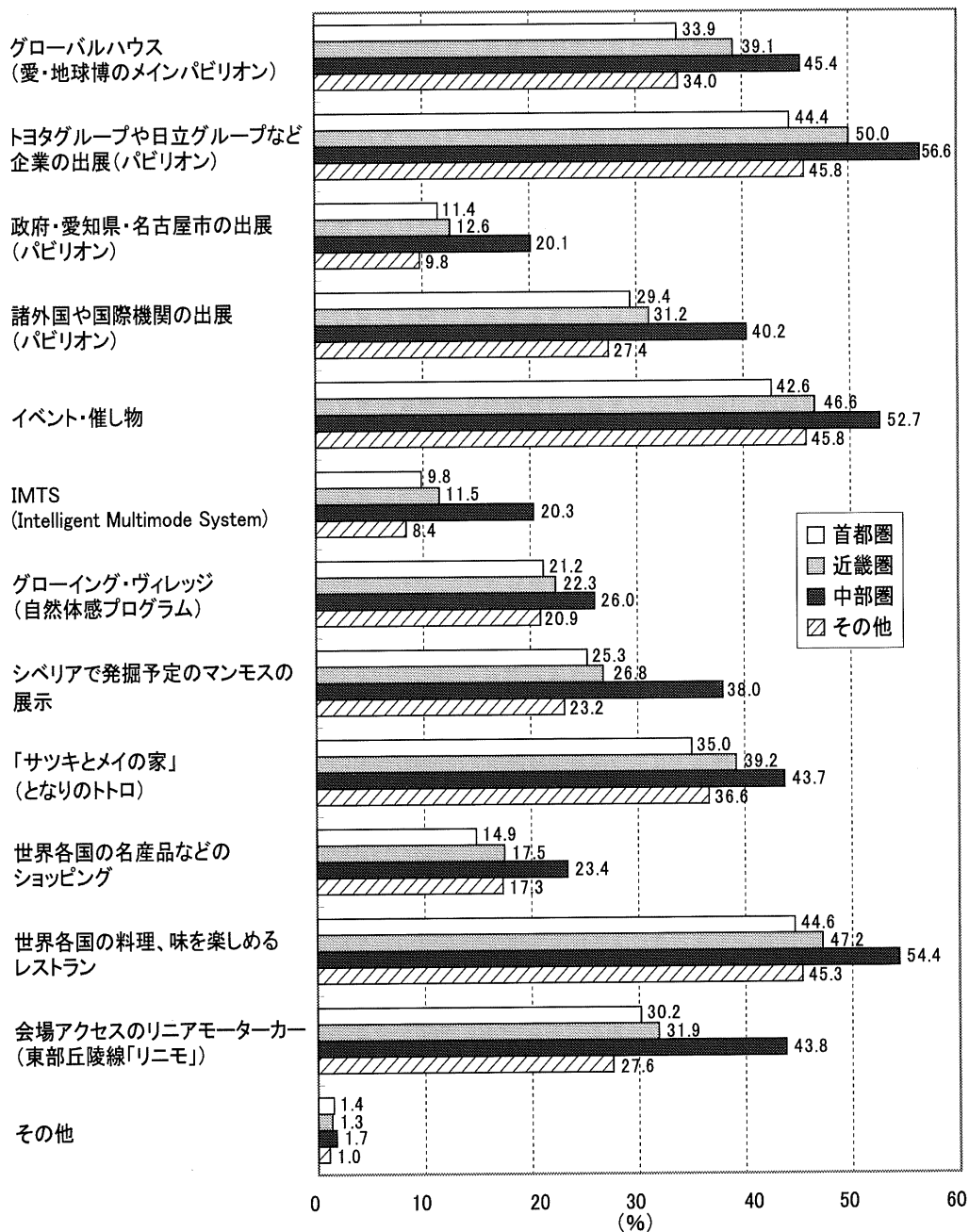
トラン」の3つについて、それぞれ約5割の人が見たい（体験したい）と答えた。

日本初の実用リニアモーターカーである「リニモ」への関心度は、中部圏では4割強で、中部圏以外では3割程度となっている。

★パビリオンでは、「企業のパビリオン」への注目度が最も高い。

さらに、パビリオン（展示）に限ってみると、現時点では、「企業パビリオン」への注目度が最も高く、次いで「愛・地球博のメインパビリオン」、「諸外国や国際機関のパビリオン」、「政府・愛知県・名古屋市のパビリオン」の順となっている。

問6〔地域別〕



★パビリオンへの関心が高い男性、

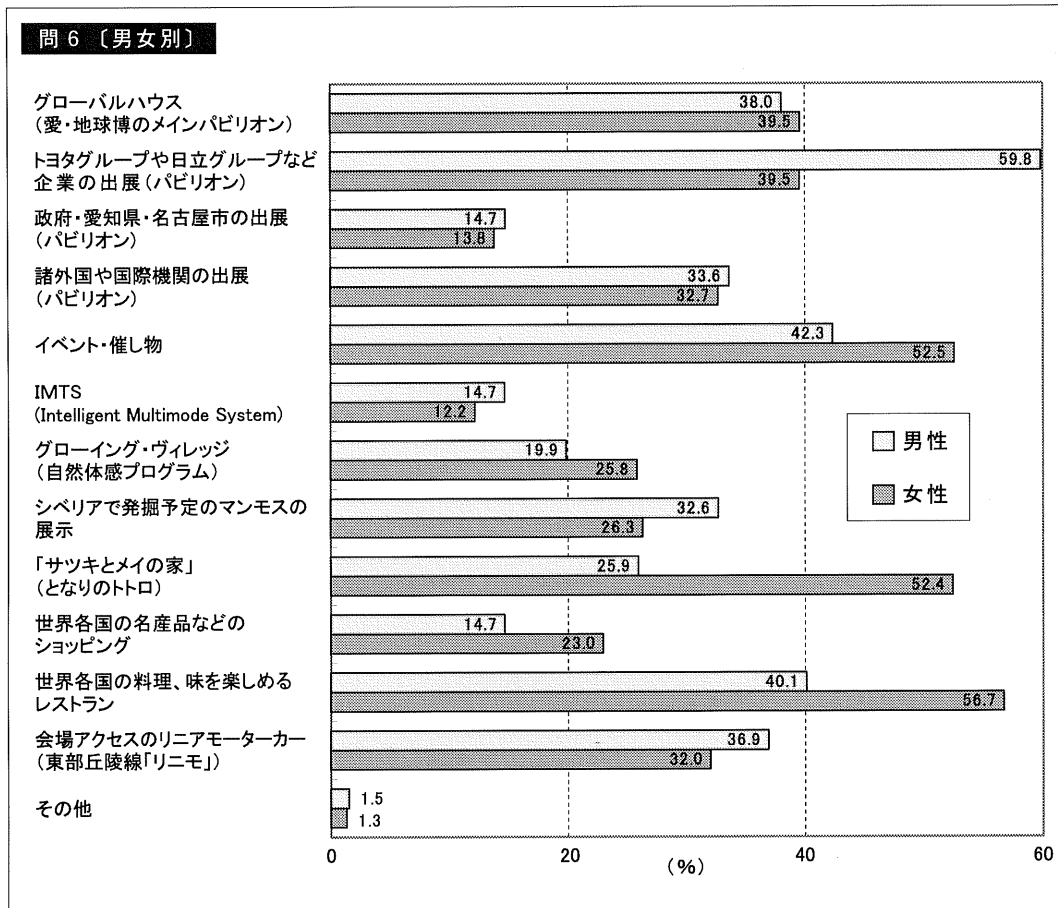
女性の関心は、イベントや世界の味、となりのトトロ

各コンテンツへの関心度は、男女で大きな違いが出た。

男性のトップは「企業パビリオン」で、今回の男性回答者の約6割が関心を持っている

た。一方、女性の企業パビリオンへの関心度は4割弱で、男性とは20%以上の開きがある。

女性の関心あるコンテンツのトップは、「世界各国の料理、味を楽しめるレストラン」。次いで高いのが「イベント・催し物」と「サツキとメイの家(となりのトトロ)」で、この3つに関して5割を超える数字が出た。



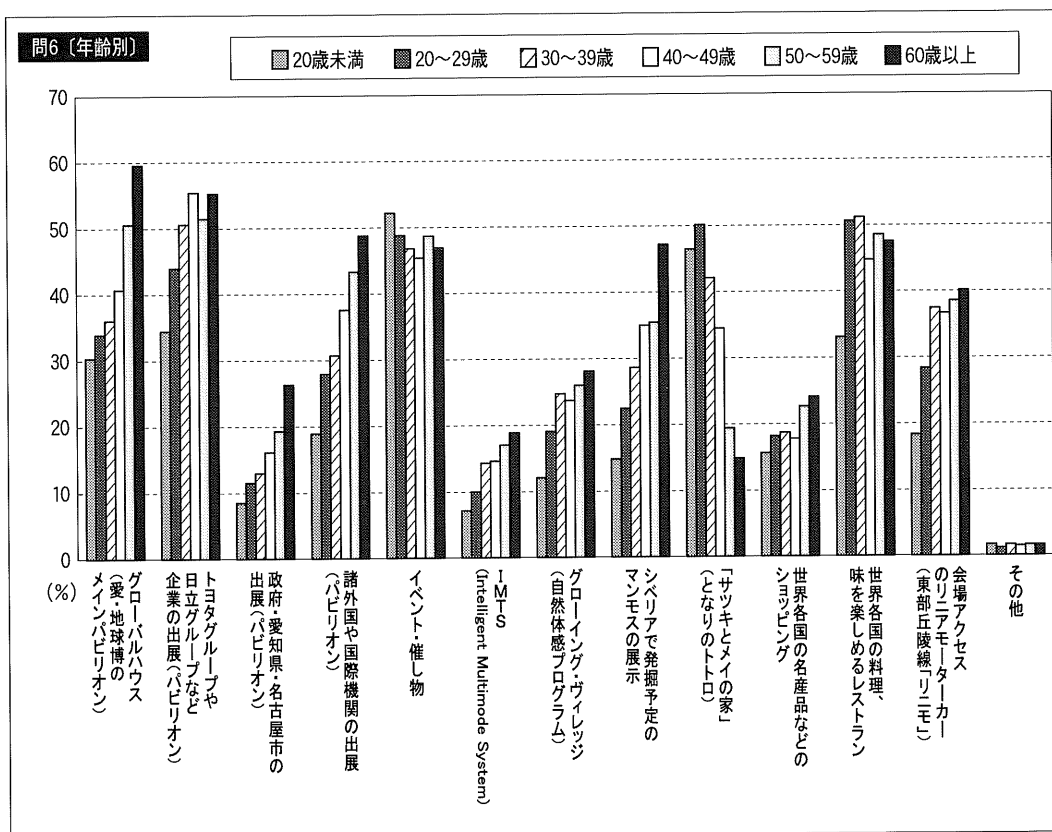
★20歳未満は「イベント・催し」に関心が。50代、60代はパビリオンに高い関心。

年齢別で見ると、あらゆる年代で高い関心が示されたのが「イベント・催し物」で特に20歳未満の関心が高い。

また、20代、30代の回答で「サツキとメイの家」が多かったのは、自身がトトロ世代で

あるとともに、子どもとともにという思いもあるようだ。

50代、60代の大阪万博世代の関心は、若い世代より「グローバルハウス（愛・地球博のメインパビリオン）」をはじめパビリオンに寄せられているようだ。

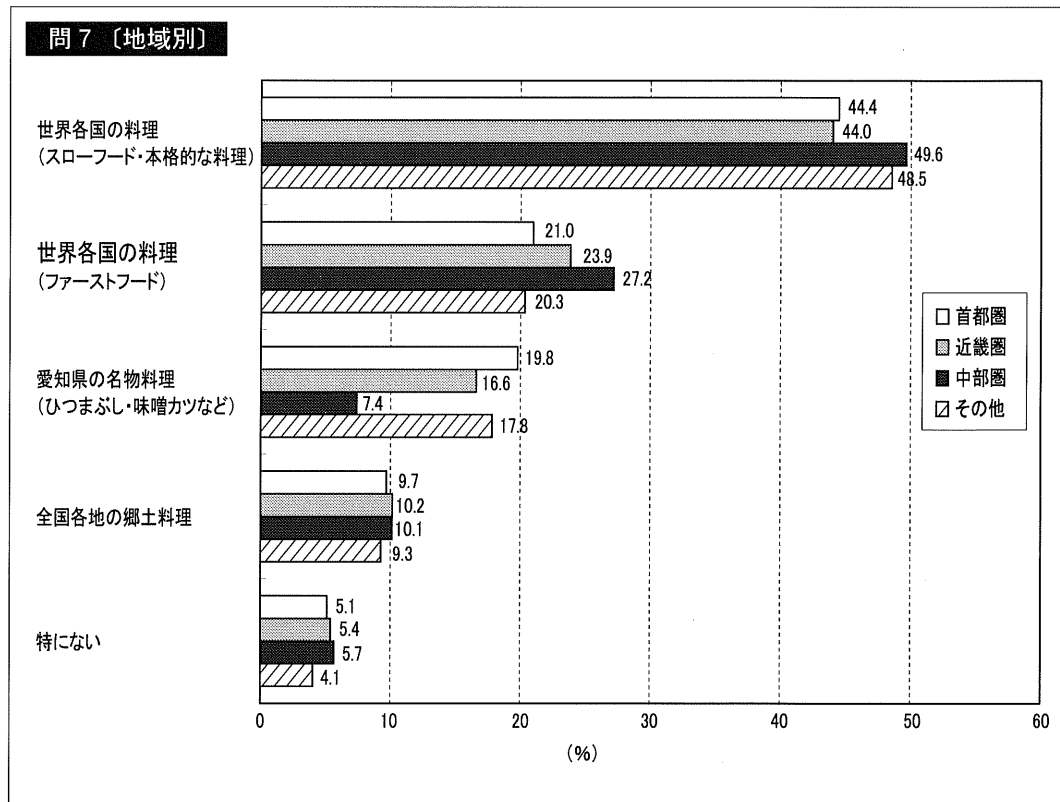


Q7 愛・地球博の会場で食べたい食事を1つお選びください。

★「世界各国のスローフード」がトップ。
首都圏の人は、「愛知県の名物料理」にも関心が。

「世界各国の”本格的な”料理」への関心が高く、どの地域も5割に近い関心度があった。

また、「愛知県の名物料理」に対して、首都圏では世界各国のファーストフードと同じぐらいの関心を持っているという結果が出た。

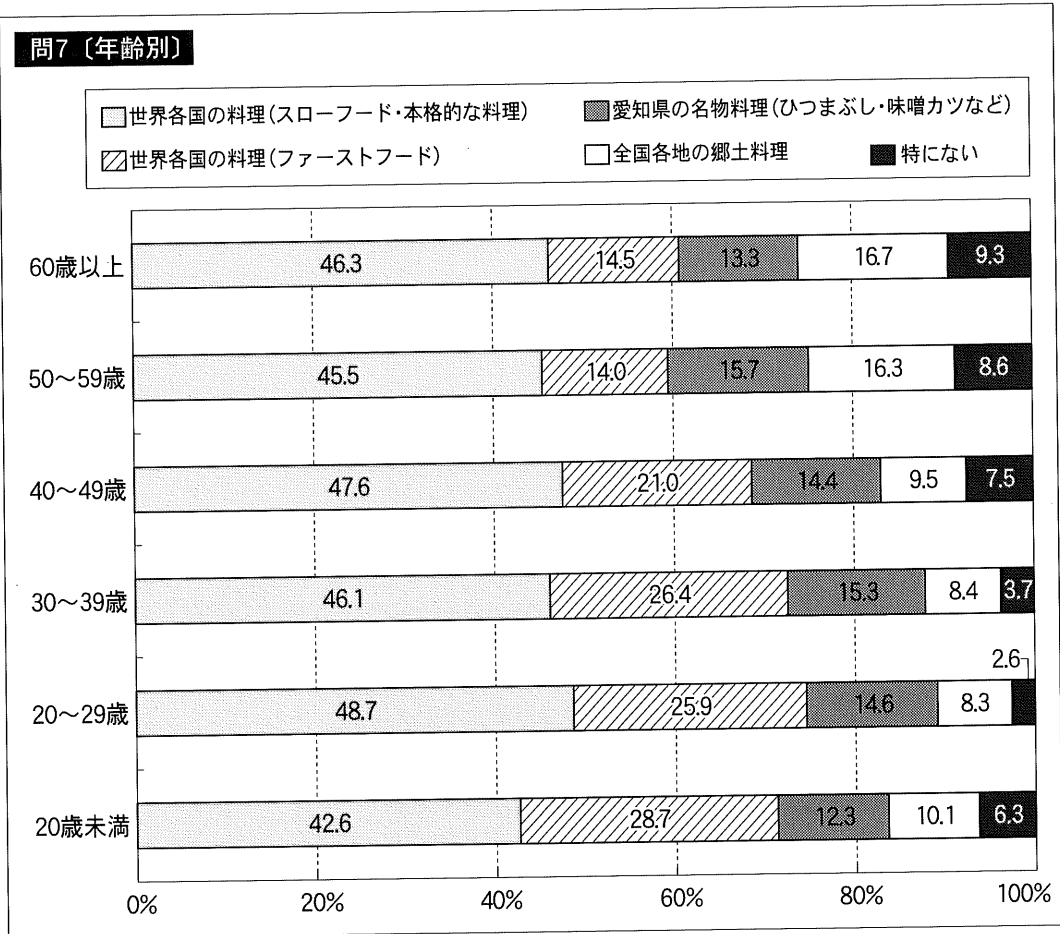


★30代以下の世代は、世界のスローフードもファーストフードも両方食べたい。

年代で違いが出たのは、「世界各国のファーストフード」への関心。50代以上は15%程度の関心度であるのに対し、40代で約20%、30代より下では25%を超える人が食べたい

と回答した。

「世界のスローフード」への関心は、どの年代も同じぐらいであることから、30代から下は、できれば「世界のスローフードもファーストフードも両方食べたい」と考えているようだ。



Q 8

A〔愛知・岐阜・三重県の人への質問〕

遠方の方(海外からも含む)が愛・地球博に訪れるとして、併せてお薦めしたい観光地・観光施設はありますか。

B〔愛知・岐阜・三重県以外にお住まいの人への質問〕

愛・地球博に訪れるとするならば、併せて回りたい観光地、観光施設はありますか。

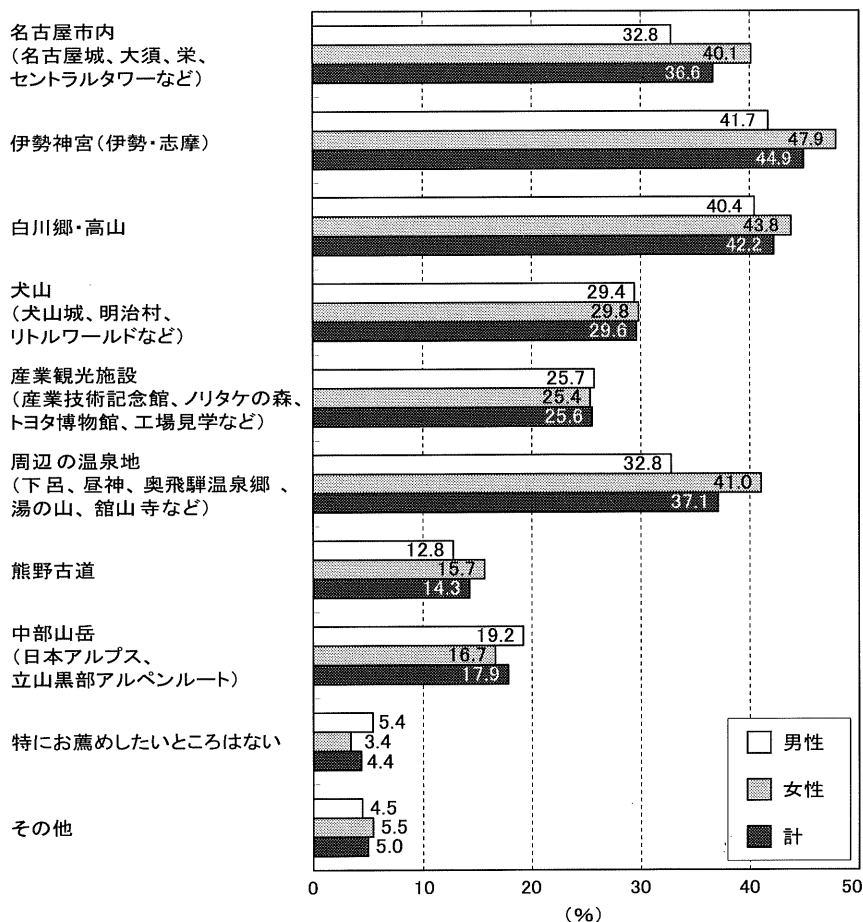
(複数回答可)

★薦めたい愛・地球博周辺の観光地ベスト3は、「伊勢・志摩」「白川郷・高山」「温泉地」。

「名古屋市内の観光」も約4割が推薦。

愛知・岐阜・三重の人が他の地域の人に愛・地球博と併せて薦めたい観光スポットのトップは「伊勢神宮(伊勢・志摩)」。全体では44.9%、女性に限っては5割近い人がお薦めスポットとして選択した。次いで高いのが世界遺産・白川郷と高山で、男女とも4割を超える人が薦めている。第3位は、下呂や奥飛騨温泉郷など周辺の温泉地。そしてそれに迫る回答数があったのが「名古屋市内の観光」であった。

問8-a 愛・地球博周辺のお薦め観光スポット〔計、男女別〕



★一方、東海3県以外の方が万博と併せて回りたい場所は、「名古屋市内」と「温泉地」。

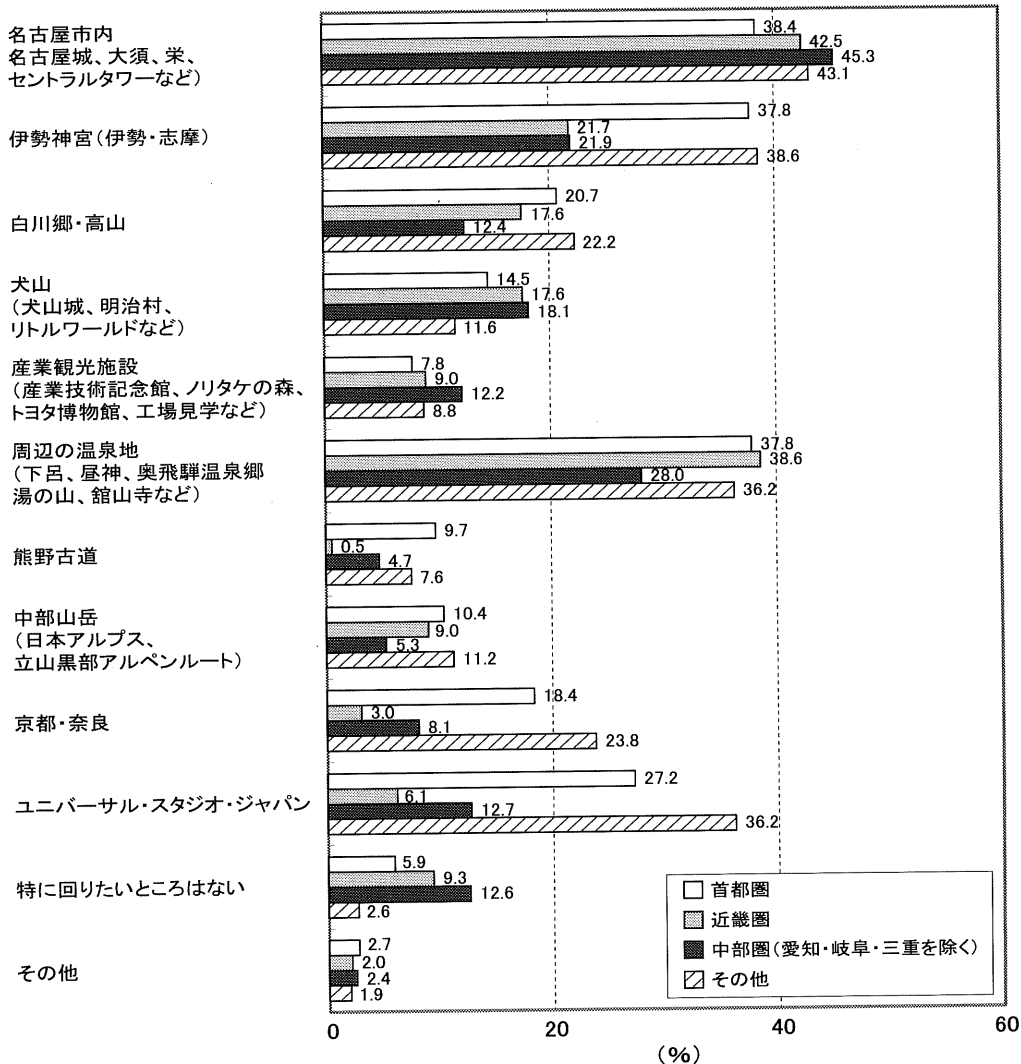
首都圏とその他の地域では、「伊勢・志摩」も人気が高く、4割近くが「行きたい」と回答。

愛知・岐阜・三重県以外の方が、愛・地球博と併せて回りたい観光スポットのトップは、「名古屋市内」。続いて「周辺の温泉地」であった。首都圏とその他の地域では、伊勢神宮のある「伊勢・志摩」と回答した比率も

高かった。

お薦めしたいの場所と行きたい場所で大きな違いが出たのが、「白川郷・高山」であった。東海3県の人々の4割が薦める結果が出たのに対し、そこへ行きたいという回答は2割程度しかなかった。また、愛・地球博開催地とはかなり離れた場所にあるが、西日本最大のテーマパークであるユニバーサル・スタジオ・ジャパンを選択した人が、首都圏で27.2%、その他の地域では38.2%もいた。

問8-b 愛・地球博と併せて回りたい観光スポット〔地域別〕



アンケート調査を終えて

－愛・地球博の魅力を伝える効果的なPRを－

◆ 中部圏以外の地域、若い世代の認知度を上げていくようなPRを

「愛・地球博」（正式名称：2005年日本国際博覧会）は、2005年の3月25日～9月25日まで185日間にわたって開催される21世紀最初の万博であり、目標入場者数は1,500万人と設定される世界規模のイベントである。しかし、開催まですでに1年をきった今回の調査時点で、この「愛・地球博」を知っている人は、開催地を抱える中部圏では9割を超えたものの、その他の地域でまだまだ認知が進んでいない結果が出た。開催について「知らない」と答えた人が、近畿圏で約3割、首都圏で約5割、そしてその他の地域では約6割もいた。若い人ほど認知度が低いのも問題だ。特に20才未満では、認知度が5割を切っている。大阪万博の時は、小中学生の読む雑誌にパビリオンの展示など万博の魅力を伝える特集が掲載され、海外への憧れもあって子どもたちの万博への関心は非常に高かったと聞く。認知度の低い首都圏など中部圏以外の地域向け、また若い世代、学生向けにさまざまなメディアを使った重点的なPRが望まれる。

◆ わかりやすいテーマのPRを

「知っている人」の中でも、愛・地球博の開催意義ともいえるテーマ「自然の叡智」について知っている人は、中部圏でも5割程度で、その他の地域ではその認知度はかなり低い。意見の記入欄を見ると、「自然の叡智」

を「難しくてよくわからない」と感じている人も多い。愛・地球博は環境をテーマとして取り上げた最初の万博であり、テーマに共感してもらうことに大きな開催意義がある。

「自然の叡智」というテーマをわかりやすくPRしていくことが愛・地球博の認知度を上げていくことにもつながる。

◆ パビリオンなど展示内容のPRが浮動層の獲得につながる

愛・地球博に行く予定があるかどうかの質問に対し、中部圏以外の地域では、「内容が魅力的ならば行く」「開幕後の評判が良ければ行く」と回答した、いわば浮動層が3割以上を占めた。そんな彼らにどのような条件であれば行っても良いと思うかと尋ねた結果、どの地域でも総じて高かったのが「楽しそうなパビリオン展示」であった。愛・地球博に関して「もっと知りたい情報」のトップが、「パビリオンや展示物の詳しい内容」がであったことも考えると、各パビリオンの内容や魅力をPRしていくことが、来場者のアップにつながるものと考えられる。

◆ 女性向けには開催地周辺の観光地をセットにした観光ルートのPRを

遠方からの来訪を促すためには、周辺の観光地とセットで売り込むことも大いに検討すべきである。開幕までにもっと知りたい情報として、「周辺の観光地の情報」と回答した人は女性を中心に中部圏以外の地域で4割程

度もあり、愛・地球博をからめた観光ツアーを設定してほしいという要望も多かった。開催地から遠い地域からでも愛・地球博へ来ることに魅力を感じる開催地周辺の観光地巡りと合わせたPRを女性誌・情報誌などを使って展開していくことも、来場者を増やすポイントになるのではないかな。

◆ 愛・地球博を名古屋市内観光の契機に

愛・地球博と併せて回りたい観光スポットとして（意外にも？）「名古屋市内」が周辺の有名な観光地を押しつけてトップになったことにも、ぜひ注目すべきであろう。また、愛知・岐阜・三重県の人約4割が愛・地球博と併せて薦めたい観光地として、「名古屋市内の観光」をあげている。そこで、愛・地球博と名古屋市内のおすすめスポットをセットにした新しいツアーの提案などを募ることも検討してみてもどうか。